

消化器内科ストレートコース

消化器内科ストレートコースは卒後3－5年目の3年間で消化器内科全般を研修するコースです。消化器内科が担当する臓器は上部消化管・下部消化管・肝・胆・膵と広範囲にわたります。従って疾患も多様ですが、3年間で約400症例の患者さんを主治医として受け持ち、ほぼ全領域の消化器疾患を経験できます。

将来、消化管や肝臓など subspeciality を目指す人も、最初の3年間は all-round な研修をして、all-round な消化器内科医 “general gastroenterol/hepatologist に育てることが当科の方針です。

1. 研修のスタート

本院のジュニアレジデントを経ないでストレートコースを研修する場合は、最初の数か月間はジュニアやシニアのローテーターと同じ総合病棟で研修し、当院の診療システムや環境に慣れて戴くことになっています。

この間は他科の先生と親しくなって3年間の研修を実り多い物にするチャンスです。

2. 消化器内科の研修スタート

消化器内科に配属となり、いよいよ専門研修が開始となります。

この時点から消化器内科病棟の主治医となります。さまざまな分野の患者さんを受け持ち、各々の領域の専門家とディスカッション、協力しながら診療をします。もちろん初めからすべての手技ができるわけではありませんから、受け持ち患者の診療をしながら検査、処置の手技を経験します。週入院患者カンファレンス、放科との肝癌カンファレンス、外科、放科との術前カンファレンス、抄読会があります。

3. 検査、手技の習得

毎週決まった曜日に指導医とともに内視鏡検査、超音波検査を実際に経験して学びます。内視鏡は上部消化管内視鏡に習熟すれば、徐々に下部消化管内視鏡、ERCPやEUSなど高度な手技に進みます。

ちなみに過去の消化器内科レジデントの検査経験症例数は下記の通りです。

検査手技	経験例数（3年間合計）
上部消化管内視鏡検査	1471～1720件
下部消化管内視鏡	530～783件
ERCP	99～125件

肝臓穿刺などの手技は初めに肝生検、その後腫瘍などの狙撃生検、治療手技としてPEI、RFAなどを順を追って経験します。

消化器内科医には診断とともに治療の醍醐味があります。
消化管出血に対する内視鏡的止血術、消化管腫瘍のポリペクトミーやEMR、早期胃癌に対するESD、良性・悪性胆道閉塞に対する内視鏡的減黄ドレナージ術、総胆管結石に対する乳頭切開、切石術、肝癌に対するPEI、RFAなど多彩な治療法が経験できます。

4. 過去のシニアレジデントの動向と進路

2008年までの消化器内科シニアレジデント終了者は12名です。

シニアレジデント着任前の研修先で分けると

当院のジュニアレジデント：7名

他院のジュニアレジデント：5名

シニアレジデント終了後の進路は本人の希望に沿って関連の大学や、病院と相談の上で決まります。

今までの12名の進路は下記の通りでした。

当院のスタッフとなった後、数年後に大学へ：4名

当院のスタッフとして現在まで勤務：1名

大学院へ：4名

他の臨床病院へ：3名

5. 君の応募を待っています。

消化器内科領域は特に基礎的な知識と、技術が重要です。当科では確かな知識と技術、経験ができます。内視鏡的止血術やポリペクトミー、肝生検などの基礎的治療手技は全員が出来るようになります。

当科では卒後5年目に難しい内視鏡的乳頭切開術やESDをやり遂げた医師もいます。

症例が豊富な天理よろづ相談所病院で消化器内科医としての基礎知識と技術を習得しませんか。

我々は若いちからを喜んでサポートします。

消化器内科スタッフの内、当院のシニアレジデント経験者は4名です（2008年8月）。

多くの先輩が君を待っています。

レジデントのコメント

消化器内科ストレートコース3年目、山賀雄一

天理よろづ相談所病院の消化器内科後期研修では、非常に豊富な症例や手技を経験できます。内視鏡の件数も多く、指導医の先生方の指導も非常に熱心です。上部・下部消化管、肝・胆膵などと区分けされていないので、幅広く経験することができ、消化器内科医の最初の研修として最適の環境です。

時間外は指導医との2人で待機当番に当たり、消化器内科医に必須である、緊急の内視鏡処置や緊急の入院を要する症例を経験できます。

手技については、後期研修の3年間のうち、まず1年目は上部消化管内視鏡から始めていきます。最初は見学、ついで抜去、さらには挿入と進んでいきます。上達してくると、吐血などの緊急の上部消化管内視鏡時も施行するチャンスが巡ってきます。腹部超音波については、技師の方にご指導頂きます。PEGも随時行っていきます。2年目になる頃から、下部消化管内視鏡の研修が始まります。3年目頃からERCPが始まります。EUSなどもあります。肝生検、RFAも、入院主治医に当たっている症例を中心に、随時施行していきます。小腸内視鏡についても、適応症例があれば、指導医と一緒に施行していきます。当院ではESDを火、水、木の午後に行っており、若手の参加が歓迎されます。私の1年先輩は、ほとんどのESDのセッションに参加し、ESDの主要メンバーの一角を担っていました。

どの処置についても、われわれ若手が加わっていくことに、指導医の先生方は非常に好意的で、単なる見学のみでは得られない経験を日々積むことができます。内視鏡室のスタッフも、若手の指導に対する意識が高く、何か処置などがあれば、連絡をして下さいます。

腹水穿刺など、その他のベッドサイドの処置についても、随時、上級医の指導の下に行っていきます。

後期研修の3年間のうち、数ヶ月から半年間（期間についてはケースバイケースです）、関連他科にて研修することができます。例えば、当院では、TAE、PTCD、イレウス管挿入は原則として放射線科が担当することとなっていますが、放射線科を研修することで、これらの処置を経験できます。病理部や腹部一般外科でも研修を積むことが可能です。当院では、長らくレジデント教育に熱心に取り組んできた伝統があります。このため、どの科の先生方も、科にこだわらず若手に対する指導は、非常に熱心です。

各種学会、総会などへの発表も行います。ちなみに、夏季休暇は約1週間、年末年始は当番制です。

このように、天理よろづ相談所病院は消化器内科医の最初の研修として最適の環境と思います。ぜひ一緒に頑張ってください。

なお <http://www.tenriyorozu-hp.or.jp/01hospital/03kakubu/01sinryou/05syounai.html> をクリックすると天理よろづ相談所病院 消化器内科の紹介ページが見られます。覗いてみてください。